

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	松尾188号線整備事業(祝沢線交差点改良)	会計	一般会計	事業No.	575	施策順No.	44-009
		事業種別	政策・重点	予算科目	8-2-3-11-6		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	土木課		
施策	44 交通機関と道路の充実		事業期間	開始	21	終了	25

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	歩行者及び通過車両						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		歩行者数:人/日		200	200	200	200		
		自動車交通量:台/日		7000	7000	7000	7000		
意図		歩車道を分離することにより、安全が確保される。							
対象をどう変えるか		事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		進捗率:%(当年度までの実施済額/全体事業費×100) 8,600/300,000		1	1	19	3	40	D
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	22年度は家屋移転に伴う所有者への事業説明を重点的にを行い、事業への意見、残地の意向、移転先の希望等の把握を行った。また地権者からも同様に意向を聴取している。関係地権者全体からは絶対反対という意見は聞かれなかったため、物件調査2件を行った。23年度用地測量、残りの物件調査、用地買収を一部進めたい。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	飯田バイパスから毛賀地区の工業団地までの連絡道路として、朝晩の交通量が多く渋滞が発生している。現道沿線は、宅地として開発され住宅が密集している。よって、比較的住宅の少ない送電線下に新たな道路を整備し、併せて既存の祝沢線の交差点改良を行うことにより、渋滞の解消を図るとともに歩行者の安全を確保する。 松尾188号線道路築造 L=210m W=9.0m 祝沢線交差点改良 L=220m W=11.25m		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 用地測量 2 物件調査業務 3 用地買収	1 用地測量 2 物件調査 3 用地買収	1 A=0㎡ 2 2件 3 A=0㎡
23年度実施計画	1 用地測量 2 物件調査業務 3 物件補償 4 用地買収	1 用地測量 2 物件調査 3 物件補償 4 用地買収	1 1式 2 6件 3 4件 4 A=1,630㎡

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	2,354	2,354	60,500	特定財源内訳、補足事項 (国)地域活力基盤創造交付金(5.5/10)1,474千円 (国)社会資本整備総合交付金(活力創出基盤整備)(5.5/10)880千円 (そ)繰越金 21→22繰越明許費 2,680千円
	起債					
	その他	1,206	1,206			
	一般財源	790	790	49,500		
	計(A)	4,350	4,350	110,000		
	正規職員所要時間		500			
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)		1,788			
	トータルコスト A+B		6,138			

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> 松尾地区まちづくり委員会の重点項目に挙げられており、強い改修要望(渋滞対策)が求められている。 議会からは早期開通を望まれている。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞在者、財産、事業者が便利で安全に移動できる。	施策の成果指標又はムトス指標	市内の移動に不便を感じる市民の割合(道路)%
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	飯田バイパスから毛賀地区の工業団地までの連絡道路として、朝晩の交通量が多く渋滞が発生しており、新たな道路を整備し、併せて既存の祝沢線の交差点改良を行うことにより、スムーズな交通確保ができ、利用者の安全につながる。		
	後期に向けた課題	事業推進		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	事業の成果は早期事業完了にあるため、直接関係する地権者、特に家屋移転を伴う地権者を最優先に事業説明を行い、事業進捗につなげた。		
	後期に向けた課題	周辺住民への事業説明		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	個々の地権者説明に地元の役員の方が市職員と同行いただき、地権者の移転先等の地元の情報を一緒に説明いただき、事務の効率化を図っている。		
	後期に向けた課題	特になし		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市道松尾153号線に代わる新設道路事業であり、受益者負担、市の関与について検討する余地はない。		
	後期に向けた課題	特になし		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	事業主体は飯田市。飯田市で事業を推進する。		
	後期に向けた課題	特になし		
全体を通じて	4年間の振り返り	平成20年度から事業に着手しているが、当新設道路築造事業は地元からの要望事業ではなく、市の施策として取りかかった事業であったため、地権者はもとより、地元役員、周辺住民に至るまで事業に対する反発が強かったが、地元役員は鼎、松尾の両地区役員会を組織し、地域に必要な道路と位置づけ協力体制を組んでいただき、祝沢線改良と分け、松尾188号線の地権者を先行し、個々に事業説明、意向を聞くことにより、少しずつ動きが出てきた。		
	後期に向けた課題	用地測量、単価決定、補償物件調査、移転補償契約、用地契約、代替地契約、工事施工等。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	--	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------